

礼拝（公禱）再開へ向けて

2020年6月12日

東京教区主教

フランシスコ・ザビエル

高橋 宏幸

3月8日（大齋節第二主日）

より「礼拝（公禱）休止」を
続けてきましたが、下記「11
項目」を基にし、7月からを
目標に「礼拝（公禱）再開」

への第一段階へ進むことと致
します。これまでの間、常

置委員会、聖職会、各教会・

礼拝堂教会委員会等で、礼拝

（公禱）の段階的再開へ向け

ての様々な話し合い、シミュ

レーション、工夫を積み重ね

て頂いております。しかし、

すぐさま礼拝（公禱）休止

以前の教会に戻ることは考え

られません。「緊急事態宣言」

解除は「安全宣言」発令でも

「ウイルス消滅宣言」発令で

もないだけに、今後も状況を

見つつ、慎重、かつ丁寧な備

えをして再開へと向かいたい
現行方式継続

と思います。今後も様々な制

約を設けなければなりません

が、それは「神様からの賜物

である尊いいのちを守る（守

り合う）ため」に、自分だけ

でなく他の方々のいのちをも

守るために、キリストの教会

としての責任ある前向きな行

動とご理解ください。

「感染防止要件確保の確認」
項目として

（1）聖堂・礼拝堂の環境（密

閉・密集・密接回避の徹底化

と確立）

（2）手洗・消毒・マスク着

用等の適切な対応での礼拝出

席 奉仕者の手洗・消毒の徹

底 礼拝前の検温

（3）礼拝回数・聖歌曲数・

礼拝および式次第の工夫（場

合により祈祷書の選択的用の

可能性）

（4）聖餐式を行う場合の「平

和の挨拶」「陪餐方法」（暫く

すること

（5）聖堂・礼拝堂、礼拝用品、

礼拝用書等の消毒

（6）通常の礼拝出席者数・

年齢構成・来会方法（公共交

通機関）の確認と対応

（7）礼拝出席者の記録（万

が一の感染経路確認のため）

（8）体調不良時の礼拝出席

自粛の促し

（9）不安時には、礼拝出席

を控えることへの促しと安心

感を与える配慮

（10）礼拝（公禱）後の速や

かな解散（同一日の次の礼拝

まで留まらない）

（11）愛餐会等飲食の休止継続

・まずは礼拝（公禱）再開に

焦点を置き（第一ステップ）、

その他、教会の通常の集会は

休止を継続し、再開は今後の

ステップとすること

・状況を鑑み、再開の日程や

方法等について、ある程度教

会・礼拝堂単位の判断を尊重

る旨を通知しておく必要が

あること関連施設が併設さ

れている場合には、同様の

対応をすること

また、礼拝（公禱）再開

の折にも、移動手段なども

含め、礼拝出席に不安のあ

る方がたは決して無理をな

さらず、出席をお控えいた

だきますようお願い致しま

す。基礎疾患のある方がた

や、重症化率の高いことが

統計上判明しているご高齢

の方がたには、何よりも「い

のちを守る」ため、今しば

らく自粛をお願い申し上げます。

なお、教会へお運び

になれない方がたのために、

今後も主教座聖堂からの映

像配信はしばらく続けてま

いります。

今後も毎主日正午には主

イエス・キリストが授けら

れた「主の祈り」をそれぞ

れが居られる場所で、共通の信仰的業として捧げることが継続していきたくお願い申し上げます。誰かのために、何かのためにできること、しなければならぬことを祈りの内に聴き続けたく思います。

の不安、困難を余儀なくされている方がたへの支え、ご逝去された方がたの魂の平安と悲しみの内にある方がたへの慰め、この危機の収束を切にお祈り致しますよう。

生かされている、このことを謙虚に、そして感謝をもって心に刻みたいと思います。

併せまして、社会との接点の中での尊いお働き、殊に社会福祉施設、医療施設、高齢者施設、幼稚園、保育園等のお働き、社会生活の営みを支えるお働きをそこで献身していらっしやる方がた、関係者のためにもお祈りを捧げます。私たちは各々の生活の場

神の命の息を吹き込まれている私たちですが、先月アメリカで、その同じ人間によって息をできなくさせられた心を痛める悲惨な事件が起こりました。神は全ての人に神の息を吹き込まれ、生きるようにされたにもかかわらず、このような事件が人によって引き起こされたことを心に留め、他人事として済ませるのではなく、私たちの問題、痛みとして悔い改めの祈りを捧げたいと思います。

主が憐れみをもって、私たちの悩みを顧み、愁いと恐れを取り除き、み顔の光によって私たちに主を仰ぎ見る力と希望を注いでくださいますように アーメン

の繋がり、強さ、そしてその大切さ、キリストの体という共同体の信仰の素晴らしさを深く心に刻んでおります。

私たちは建物としての教会・礼拝堂には集まれずに過

感染症に罹った方がたの一日も早い回復、医療の最前線で力を尽くしておられる方がたの献身的なお働き、生活上

帯の内に神の息を頂き、共に

東京教区高橋宏幸主教から米国聖公会総裁主教マイケル・カーリー主教及びワシントン教区マリアン・ブッド主教にあてた書簡です。(広報委員会)

日本聖公会
東京教区

NIPPON SEI KO KAI
-The Anglican Church in Japan-
Diocese of Tokyo



主教：フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

Bishop: The Rt. Rev. Francisco Xavier H. Takahashi

Dear The Most Rev Michael Curry, the Presiding Bishop of the Episcopal Church,
Dear Rt Rev Mariann Budke, the Bishop of Washington Diocese,

June 6th 2020

+ Peace in Christ

Breathe upon us, O Lord,
and fill us with the Holy Spirit. Alleluia!

It is so sad that today the racism still continues to cause incalculable harm across the world, especially that to know this time it has brought the civil unrest in your country.

As the bishop of Tokyo Diocese, and in behalf of all the members of the Diocese, today I and the members of the Cathedral prayed that God's wisdom and love will guide leaders across the world, especially the leaders of USA, to forge the real Kingdom. May the Kingdom come!

We prayed also for those who have lost their lives of gifts from and for those who live in fear.

Yes, surely the racism is an affront to God. We all bear the responsibility. The recent events invites us, the Japanese, again to discern our own tendency for the discrimination to other Asian peoples.

At the same time, we wish that exclusion by discrimination the one in Japan and Tokyo and the differential and the justice-lessness at the all over the world disappear.

Now I assure you that we are united in prayer.

In communion,

+Bishop Francisco Xavier Takahashi
The Bishop of Tokyo Diocese

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-6-18 TEL: 03-3433-0987 FAX: 03-3433-8678 E-MAIL: bishop.tko@nkk.org
3-6-18 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, 105-0011, JAPAN TEL: +81-3-3433-0987 FAX: +81-3-3433-8678